



## 今回の紙面

- ◇新年ごあいさつ《木村清志》
- ◇地域医療最前線 28 《武田博士》
- ◇看護師さんのページ 8 《岩田典子》
- ◇研修医のページ 13 《向井俊貴》
- ◇ハワイ大学視察報告《加藤節司》
- ◇地域医療支援会議報告
- ◇その他



## 年頭ごあいさつ

島根県健康福祉部医療対策課

医師確保対策室長 木村 清志



意味での即戦力となる医師の確保に一定の成果をあげることができたとともに、「医師を育てる」仕組みの一つである奨学金制度からも地域医療を担う医師が誕生した一年であったと考えております。

また一方で、昨年度に続き今年度も10月に県内の勤務医師実態調査をさせていただきましたが、(詳細は後述)県内の勤務医師の不足は好転するに至っておりません。中山間地においては、更に進んでいるといわざるを得ません。

先日発表された国の来年度予算において、医師確保に関しては大幅に増額され、医師の技術料にあたる診療報酬の「本体部分」は0.38%引き上げることがが決定しています。これらのことにより、地域医療機関の医師不足が若干なりとも緩和されていくことを願っております。

今年度も「医師を呼ぶ」事業にさらに尽力するとともに、「医師を育てる」という意味では、平成21年度からの緊急臨時的な医師養成数の増員を島根大学とともに取り組んでまいります。また、研修医の定着事業に関しても島根大学と従前以上に密接に連携を持って取り組んでいく所存であります。

皆様方の本年益々のご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 「医々とも座談会」を終えて

隠岐病院長 武田 博士



病院と地域住民との対話情報交換の場として開催した「医々とも

座談会」は、島内14地区を回り、1月1日で終了しました。スケジュールの変更などもありましたが、ほぼ予定通り進み隠岐病院から最も時間のかかる地区で打ち上げとなりました。最後になった地区は、ある事情で一番最初に出かけたかった地区でしたが、9月の大雨災害や自身のスケジュール変更などで最後になってしまいました。全地区を終えて少しほっとしています。が、当初予定していなかった地区からお声がかかり、少し規模を小さくして少人数で出かけることになりました。当初から心配していたことですが、夜七時半からの開始ですから、各地区の皆様には眠いところ大変ご迷惑をおかけしたと思っています。

隠岐の島町(島後)の直径は起伏を無くせばたったの15キロですが、変

化に富む地  
形と周囲の  
海によつて  
地区ごとに  
異なる豊か  
な伝統と文  
化がありま  
す。14箇  
所ではとて  
も回り切れたとはいえないと感じてい  
ます。



医々とも座談会の様子

座談会開催の意図するところは、ま  
ず第一に地区の皆様と院長から隠岐病  
院の現状と将来展望について説明する  
ことですが、同時に、同行した管理運  
営のトップである広域連合、および病  
院職員に私の新院長としての運営方針  
を理解してもらうことでもありました。  
職場で職員に直接話をするとはと  
ても大切ですが、各地域の皆様を前に  
して繰り返し聞いてもらう院長の所信  
表明は、私の考えを理解してもらうう  
えで効果があったと思っております。も  
ちろん地域の方々と膝を交えての懇談  
会は、地域の皆様と私をはじめとする  
職員の相互理解を深めることが最重要  
の目的であったことは言うまでもあり  
ません。地図では読み取れない環境や  
交通の状況を体験する事も大変有意  
義でした。職員でも自分の住んでいる  
地区以外は意外と知らないことも判り

ました。

座談会の次の目的は、院内各部署の  
活動振りを若い職員が中心となって紹  
介する事でした。視覚に訴える分かり  
やすい伝達手段としてパワーポイント  
による映像を標準にして工夫をこらし  
ました。座談会の実際を少し紹介致し  
ますと、院長の話に続いて、お伺いし  
ている地区出身の職員の紹介、持ち回  
りの医師による短くまとめた分分か  
りやすい疾患の話に続き、看護部と事  
務部からは、地区出身者と関連の深い  
部署について若手の地元出身者から親  
しく説明してもらい、病院の活動と仕  
組みが理解出来るようにしました。

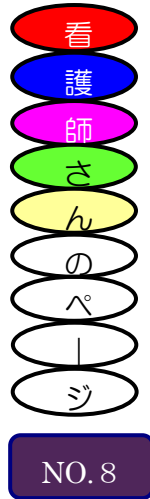
普通、病院では緊張して思い通りの  
発言ができませんが、地元の集会所で  
すとホームグラウンドの安堵感から  
色々な忌憚のない話を聞くことができ  
ました。座敷の会場も温かい雰囲気  
で良い交流ができました。

これから島全体の医療の再編が喫緊  
の課題ですし、来年度から始まる特定  
健診や保健  
指導も病院  
が主導して  
医療と保健  
の一体化を  
進めていか  
なければな  
らない状況



座談会での職員自己紹介

にあります。これからも繰り返し地域  
に出かける必要があると考えています。  
今後の予定としては「続・医々とも  
座談会」や「続々・医々とも座談会」  
など、新たな企画のもとに住民の皆様  
と隠岐病院が一体となって山積する諸  
課題を解決するために、積極的に情報  
交換に出かけたいと考えています。



### 安来市立病院に勤務して

安来市立病院看護師 岩田 典子

私は安来  
で生まれ育ち  
ましたが、都  
会への憧れも  
あり、立派な  
看護師になる  
ためには関東  
や関西の大き  
な病院で働き



たいと考え、看護学校卒業後は都会の  
病院に就職しました。看護学校卒業時  
は、地元の就職先は全く考えることも  
なかったのですが、まさか地元で働くよう  
になるとは思ってもいませんでした。  
昨年、都会での生活に区切りをつけ、

安来市立病院に就職しました。

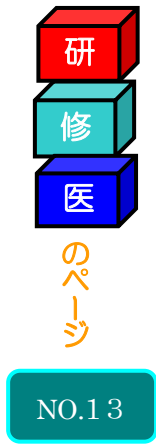
地元に戻り働いてみると、都会と地  
方を比べ、いい面や悪い面が見えてき  
ました。都会の病院では結婚すれば退  
職する看護師が多く、師長は30歳代、  
スタッフの中の年長者は10年目以下  
といった環境で、いつもピリピリと緊  
張した職場だったように思います。し  
かし、安来市立病院では、年齢層も幅  
広く経験の長い看護師も多数働いてお  
られます。そのためか職場はみんなが  
優しく、嫌な緊張感はなく、新人看護  
師も萎縮することなくのびのびと育っ  
ていました。

大きな病院でないと成長はできない  
と思っておりましたが、成長するかしな  
いかは、病院の大小ではなく本人次第  
だと感じています。ただ田舎の欠点と  
して、研修を開催する企業が少ないた  
め、受けた研修が少ない、受けた研  
修があつたとしてもお金や時間をか  
けなくてはならないということが辛い  
ところです。しかし、お金と時間をか  
ける分は、目的意識を持って熱心に受  
講できます。

また、この病院では、他病院や他施  
設を経験してきている看護師が多く、  
ベッド数も199床という中規模病院  
なので、各々の体験を通じた知識や知  
恵で、いろいろな改善がしやすいと思  
っています。



安来市の中核病院として、地域の方から信頼される病院であるために、病院の理念「人を大切に、よい医療・やさしいケア・安心」を念頭に、今後も頑張っていきたいと思えます。



松江赤十字病院

研修医 向井 俊貴

人体には500種を超える細菌が存在し、その細胞の数は合計で百兆以上になるといふ。人体を構成する細胞の数が数十兆程度であることを考えると、人間の身体は、数の上でよそ者にかなり劣っている。結果として、われわれの身体内に存在する遺伝子も、大部分が細菌のものだということになる。また、血液型とはそもそも腸内細菌の遺伝子がヒトの遺伝子に取り込まれたことに由来すると言われている。



このことを考えると、われわれ人間は歩く「超有機体」であり、ヒトの細胞と菌類、細菌、ウイルスが高度に絡み合った存在とみるのが、最も適切ならえ方と言えらるだろう。

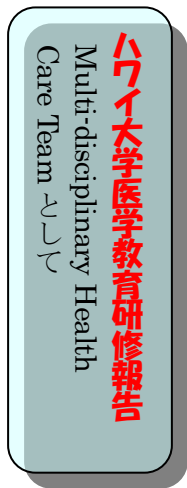
病院には医師が100人、看護師さんが630人、技師さんが60人、そのほか合わせるとスタッフ計約1,000人。病院もこれらの人たちが高度に絡み合った存在(超有機体)とみるのが、最も適切ならえ方と言えらるだろう。

縁あってそんな松江赤十字病院で初期研修を行うこととなり、まもなく2年が経とうとしています。この2年間で簡単に振り返ってみました。

社会人になりたての4月は、病院や医療に慣れるというよりも、「仕事をやる」ということに慣れるのが精一杯で、ローテートした科のことはほとんど記憶になかったというのが正直な感想です。とりあえずは「笑顔を大切に」を自分のテーマとして勝手に設定し、少しずつ病院のしきたり、看護師さんのオソロシサ等を学習し、少しずつ医師として患者さんに接することができるようになってきたと思います。患者さんともいやな顔をせずに診察や採血に付き合ってくれ、大変親切にしてくれたことに感謝しています。日赤という病

院の性質上、風邪から難病の類まで幅広く勉強することができ、体力もつきました。他の病院と比べると不可能な話ですが、自分は満足のいく2年間を過ごせたと感じています。

「ミラーニューロン説」というものがあります。難しい説明は省略しますが、要するに笑っている人を見ると自然と自分も気分がよくなるという現象のことです。来年度から専攻科も決め、本格的に忙しくなっていくことが予想されますが、つらい時こそ笑顔を大切に、医療に携わっていきたいと考えています。



医療法人仁寿会

加藤病院院長 加藤 節司

【はつらつ】

多職種からなる私たち島根大学医学部・島根県視察チームは、受け入れ先であるハワイ大



学医学部医学教育室 (OME: Office of Medical Education) という、他の多

くのアジア地域の医学教育機関と提携し、数多くの成果を挙げている医学教育専任部門においても、ユニークな視察チームとして、大いなる関心と興味を持って歓迎されたことをまず報告いたします。

【空っぽの教室】

ハワイ大学医学部には、ある有名な逸話が残っているそうです。1980年代後半、当時の医学部長が講義状況を巡視するために、講義室に入ったところが、教室には教官を除き、ほとんど人が居なかったそうです。教室に学生の数よりテーブルコーダーの数のほうが多かったという現実、医学部において、教育改革こそが最優先の課題であることを知らしめたそうです。

【医学教育室 OME】

その教育改革を実現するために設置されたのが、学長室直属の OME です。OME は学長の指揮のもと、教員教育、教材開発およびカリキュラムの整備など教育に関わるすべての事業を推進する中枢機関として、十分な予算をもつて、現在に至るまで改革を続けています。

【教育理念への PBL: Problem-based Learning】

ご存知のように島根大学で行われているチュートリアルカリキュラムのモデルとなったのがハワイ大学医学部の

PBLです。この Patient-centered, Community-based, Student-driven curriculum により、「地域ニーズを理解し、生涯教育の習慣を身につけ、高度な医療技術に裏打ちされた、高い倫理観と思いやりのある医師」を養成することが現在の教育理念です。PBL導入当初、カリキュラムを成功させるために、大学は「チューター養成」に最も力を注いだということです。チューターは学内外を問わず選出されており地域医療に従事するものがその責任の一端を担っています。学内のみならず、地域の医療従事者を含め、教育者・指導医を養成することは、地域医療人育成において極めて重要なポイントであると思われました。この点で、ハワイ大学医学部の執った方針は正しく、その後、北米で最も革新的な医学教育を行う医学部のひとつとして評価されるに至ったそうです。



【おむらじー A. ohe pau ke, ike i ka halau ho, okahi】

教室の窓越しに広がるワイキキビーチ、その向こうにダイヤモンドヘッドという大学環境は非日常体験そのものでした。その非日常にあらがらいつも何かしら気分的には落ち着いて6泊8日の日程を終えることができ



ました。オアフの開放的な雰囲気もそのひとつであったでしょう。しかし、最大の理由は、ハワイは実は島根に似ているということにあつたのかもしれない。オアフには美しいビーチはもちろん、少し山間に入ると急峻な山、溪谷、森、そのなかにせまい畑もあり、おまけにいのししまでいます。島根でよく見かける光景がそこにはありません。

そのハワイで行われている、住民参加、地域医療人参加による地域に根ざした医学教育は、あらゆる点で私たちの良いお手本になると思えました。そのスピリッツは、この報告書のタイトルとさせていただいたように、古代からある言い伝えにあるようです。このハワイの諺は、オアフに到着したその日に Gordon M. Greene 教授からいただいたハワイ大学医学部 OME のキャンパスバッグに記されていました。英語では "All knowledge is not taught in the same school." と記されています。「すべての知識はひとつの流派や学

校では教えられない。物事には数多くの考え方があるので、広く世の中のあるところまで学べよ。」ということでしょうか。ハワイアンスピリッツの奥深さをかみ締めつつ、このキャンパスバッグを手に毎日ハワイ大学医学部に通いました。古代より伝わるこのスピリッツが現代の医学教育に脈々と受け継がれていることこそ、地域医療人育成の基本であることを思い知りました。私たち地域の医療機関も、地域文化を尊重しつつ、地域住民のみなさま、大学、そして行政との協力により地域医療人の育成に貢献していきたいと思

**臨床研修指導医講習会開催**

1月2日(金)〜4日(日)の3日間、島根大学医学部において、名古屋大学医学部附属病院の伴信太郎教授らを講師に「平成19年度島根県臨床研修指導医講習会」を開催しました。

本講習会は、厚生労働省の指導医講習会の開催指針に基づき、平成17年度から島根県と島根



大学医学部との共催で実施しているもので、今回で4回目となります。

当日は、各研修病院から39名の医師が、指導医の指導技法、教育評価の方法などを中心とした延べ19時間の講習を受講しました。今回の講習会で、研修医に対する普段の指導方法について振り返り、これまでと違った視点からアプローチを検討するよい機会になったと思います。県では講習会にできるだけ多くの先生に参加していただき、研修内容を充実するきっかけ作りをしていきたいと思っています。

- ▼ディレクター
  - 名古屋大学医学部・伴信太郎先生
  - ▼チーフタスクフォース
    - 呉医療センター ・ 田中丈夫先生
    - ▼タスクフォース
      - 防衛医科大学校 ・ 角誠二郎先生
      - 〃
      - 島根大学医学部 ・ 小林裕幸先生
      - ・ 森山修行先生
      - ・ 白石吉彦先生
      - 隠岐島前病院



大変お世話になりました。

【医療対策課 古瀬】



## 第2回 地域医療支援会議報告

県内の地域医療をより総合的・体系的に推進するため、本年度第2回目の地域医療支援会議を12月26日に開催しました。

今回の会議で、済生会江津総合病院及び西部島根医療福祉センターを新たに地域医療拠点病院として指定することが決定されました。

また、昨年度に引き続き、島根大学医学部と合同で県内の全病院（60）

と公立診療所（39）を対象に実施した勤務医師実態調査（平成19年10月1日現在）について報告しました。

現行の診療体制で平成20年4月に必要な人員は1,145人（前年比5減）で、不足数は227人（前年比5減）、充足率は昨年度とほぼ同じ約8割でした。

充足率が低いのは、圏域別で、浜田圏域（69.9%）、雲南圏域（71.6%）及び益田圏域（73.7%）の3圏域で8割を下回り、診療科別では、救急（58.1%）、皮膚科（59.9%）、眼科（60.0%）、と

いう結果となりました。

## 【医療対策課 門城】



第2回地域医療支援会議

## 第2回地域医療教育連絡会報告

県内の地域医療に携る医師を養成することを目的に、昨年度から開始された島根大学医学部6年生の地域医療実習について、同大学と37の実習受入機関とが意見交換をするため「島根県地域医療教育連絡会」を10月4日に開催しました。

実習受入機関として、大田市立病院の岡田院長、西村医院の西村先生から実習状況の報告があった後、島根大学医学部地域医療教育学講座の熊倉教授から、昨年度の意見交換を受けてガイドラインを事前配布したことなど、今年度の改善点について説明がありました。

意見交換では、実習受入機関からは、「2週間受け入れた方が、指導施設側の思いも伝わり中身の濃い実習を行うことができる」、「学生と事前調整することで、双方が満足できる指導、研修が可能となった」、また、大学側からは、「実習受入機関での熱心な指導に接し、将来、島根の地域医療に貢献したいとの思いを抱く学生もいた」、「受入機関の協力をいただき、大学としても地域医療実習をさらに充実したものとしていきたい」など、活発に意見が交わされました。

## 【医療対策課 門城】

## 医師の必要数と現員数

### 〔圏域別〕

単位：人

診療科	必要数 ①	現員数（常勤換算後）		不足数 ②-①	充足率 ②/①
		②	内常勤医		
松江	414.7	353.9	321	60.8	85.3%
雲南	81.9	58.6	45	23.3	71.6%
出雲	238.0	196.8	183	41.2	82.7%
大田	83.0	66.5	52	16.5	80.1%
浜田	174.8	122.2	107	52.6	69.9%
益田	122.6	90.3	75	32.3	73.7%
隠岐	29.2	28.8	27	0.4	98.6%
合計	1,144.2	917.1	810	227.1	80.2%

### 〔診療科別〕

単位：人

診療科	必要数 ①	現員数（常勤換算後）		不足数 ②-①	充足率 ②/①
		②	内常勤医		
内科群	411.5	328.8	285	82.7	79.9%
精神科	89.7	79.3	67	10.4	88.4%
小児科	59.2	46.1	42	13.1	77.9%
外科群	149.6	133.8	123	15.8	89.4%
整形外科	100.7	81.8	73	18.9	81.2%
脳神経外科	29.2	25.9	25	3.3	88.7%
皮膚科	19.2	11.5	8	7.7	59.9%
泌尿器科	34.7	30.6	30	4.1	88.2%
産婦人科	50.5	39.6	36	10.9	78.4%
産科	44.1	35.5	34	8.6	80.5%
眼科	24.5	14.7	11	9.8	60.0%
耳鼻咽喉科	20.7	15.6	12	5.1	75.4%
リハビリテーション科	35.4	23.0	22	12.4	65.0%
放射線科	37.4	29.4	26	8.0	78.6%
麻酔科	41.9	30.4	26	11.5	72.6%
救急	16.0	9.3	9	6.7	58.1%
その他	24.0	17.3	15	6.7	72.1%
合計	1,144.2	917.1	810	227.1	80.2%

19年10月1日現在「勤務医師実態調査」より  
島根大学医学部附属病院を除く  
非常勤医師については、勤務時間により常勤換算

## 臨床研修プログラム発展講習会報告

県内の研修病院の研修プログラムが、研修医にとってより魅力的になるよう、今年度第2回目的(通算6回目)臨床研修プログラム発展講習会を10月14日(土)に開催しました。

愛知県厚生連安城更生病院長、山本昌弘先生の「安城更生病院の臨床研修」と題した講演では、初期、後期あわせ90名以上の研修医が在籍する同病院が長年培ってきた研修医教育における工夫や苦勞を中心とした講演に参加者は真剣に耳を傾けていました。

その後、参加者との質疑応答、意見交換を行い盛会のうちに終了しました。

### 【医療対策課 仕立】

## 研修医意見交換会開催報告

平成19年12月8日に研修医意見交換会&講演会を行いました。講演会には一般参加者も含め66名、意見交換会には17名の研修医に参加いただきました。

講演会では研修医の興味のある救急の分野で、ご活躍の福井大学の寺澤秀一教授に「ER研修における心得」と題し、ER研修の重要性、患者や家族に対す

る対応など、演技を交え大変参考となるお話をいただきました。

その後の意見交換会では、「研修医の1週間の生活からみえてくる！よりよい研修プログラムへ！」と題して、研修医の1週間を發表しあい、その中から病院毎のプログラムの特徴や差異について話し合いました。この発表の内容は、各研修病院にフィードバックし、今後の研修プログラムの充実に努めてまいります。

### 【医療対策課 太田】

## 医師・看護師募集をPR

### 〜近畿島根県人会にて〜

11月4日、大阪市において、第45回故郷応援団・近畿島根県人会が開催され、近畿圏に居住する県出身者を中心に約400人の方が出席しました。当課からは、医師募集のチラシや広告入りチイッシュペーパーを配布し、県内で深刻化する医師不足の状況をお話しし、医師を紹介いただくようお願いしました。これからも様々な機会を捉えて医師募集のPRをしてまいります。

### 【医療対策課 大矢】



## 県のドクターバンクから ●求人・求職取扱状況 (平成19年12月1日現在)

### <求人> 26件

邑智郡(病院)／整形外科、精神科 浜田市(病院)／内科 出雲市(診療所)／胃腸科 邑智郡(病院)／内科、整形外科、在宅医療 鹿足郡(病院)／内科、外科 仁多郡(診療所)／内科 浜田市(診療所)／内科 鹿足郡(病院)／放射線科、内科、麻酔科 益田市(病院)／内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科 松江市(病院)／内科、麻酔科 浜田市(病院)／内科、放射線科 江津市(病院)／精神科 仁多郡(病院)／眼科、内科 松江市(その他)／不問 出雲市(病院)／内科 浜田市(その他)／内科 鹿足郡(病院)／整形外科、内科、リハビリ 松江市(病院)／内科、整形外科 邑智郡(病院)／内科、整形外科、産婦人科、放射線科 雲南市(病院)／麻酔科、精神科、内科、循環器内科、皮膚科 大田市(病院)／精神科、内科 大田市(診療所)／内科 雲南市(病院)／神経内科、腎臓(循環器)、外科 益田市(病院)／精神科 安来市(病院)／内科 松江市(その他)／不問

### <求職> 1件

希望の担当科／内科

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。

電話番号:0852-21-8813(専用電話) ホームページアドレス:<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>【担当:塩田・嘉本】

## 今後のイベントスケジュール

- ▼地域医療の会 2月9日(土) 出雲ツインリーブスホテル
- ▼臨床研修病院合同説明会(医学生向け) 3月8日(土) 島根大学医学部看護学科棟
- ▼第3回地域医療支援会議 3月
- ▼医学生春季地域医療実習 3月24日～28日県下7地区にて  
※応募締め切りは1月25日です。詳細については県ホームページをご覧ください。
- ▼高校生医療現場体験セミナー 3月下旬

医師募集キャラクター

赤ひげ先生

SHIMANE  
AKAHIGE  
BANK



## 医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県医療対策課医師確保対策室

TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040

E-Mail [iryu@pref.shimane.lg.jp](mailto:iryu@pref.shimane.lg.jp)

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/>

◎住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。



携帯からの問い合わせはこちら



